

令和2年度
精神保健に関する技術研修課程

【WEBによる申込受付の研修】

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所

〒187-8553 東京都小平市小川東町4-1-1
電話 042 (341) 2711 (代表)

精神保健研究所ホームページ 研修情報案内
(<http://www.ncnp.go.jp/nimh/kenshu/index.html>)

< 目 次 >

WEBによる申込受付の各研修課程要項

第 5 回災害時 PFA と心理対応研修	1
第 34 回薬物依存臨床医師研修・第 22 回薬物依存臨床看護等研修	2
第 58 回精神保健指導課程研修	3
第 18 回摂食障害治療研修	4
第 16 回摂食障害看護研修	5
第 12 回認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修	6
第 6 回災害時 PFA と心理対応研修	7

第5回 災害時 PFA と心理対応研修

1. 目的

本研修は、自然災害等の災害時に必要とされる心のケア（社会心理対応）についての基本的な知識を習得し、あわせてWHO等の国際機関が開発した「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に基づいた被災者対応のスキルを実地に応用できる人材を育成するために実施されます。

第一日目には PFA の実技研修を行います。20-30名程度（予定）のグループに分かれ、ロールプレイ、コミュニケーションスキル訓練、シナリオに基づいた討論などを織り交ぜて、実際の対応能力の向上を目的とします。また、第二日目には、トラウマと悲嘆を含む心のケアの概論、子どもの反応についての講義を行うとともに、軽度の精神症状が残った人々の心理的回復を促すためのリカバリースキルについても研修を行います。

PFA は災害だけではなく、犯罪被害、事故などのトラウマ被害者に対しても実施できる、汎用性の高いスキルです。この機会を積極的に活用され、災害に備えるとともに日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

自然災害、甚大事故、犯罪、テロ等のトラウマ的出来事に際して、実際に被災者、被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある、精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術者、行政職員、教育関係者等。

3. 研修期間

令和2年9月8日（火）から令和2年9月9日（水）まで

※第6回災害時 PFA と心理対応研修は、令和2年12月15日（火）～12月16日（水）です。

研修内容はいずれも同一です。

4. 研修主題

「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に関する基本技能を習得する。また悲嘆、子どもの反応について理解し、不安軽減のためのスキルを習得する。

5. 課程内容	(時間)
PFA の定義と枠組み	(2.0)
PFA の活動原則	(1.5)
PFA ロールプレイ	(1.5)
セルフケアとチームのケア	(1.0)
災害と心のケア概論	(1.0)
子どもの反応	(1.5)
心理回復スキル	(2.5)
総合討論	(1.0)

合計 12 時間

6. 定員 50 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）令和2年6月30日（火）～7月20日（月）

8. 受講料 12,000 円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第34回 薬物依存臨床医師研修

第22回 薬物依存臨床看護等研修

1. 目的

国内外の薬物乱用・依存をめぐる情勢を考慮すると、我が国の精神医療、精神保健の中での薬物依存問題はますます重要性を増していると考えられる。そのため、薬物依存に関心を持つ医師、看護師等を対象に、薬物依存の概念・現状理解、基礎知識、臨床的対応法にわたる研修を行い、薬物依存の診断、治療及び予防にかかわる医療関係者を増やすことを目的とする。

2. 対象者

精神科病院、精神保健福祉センター等に勤務する医師、看護師等

3. 研修期間

令和2年9月8日（火）から令和2年9月11日（金）まで

4. 研修主題

薬物依存症概念の理解と薬物依存症に対する臨床的対応の普及

5. 課程内容

	(時間)
薬物依存に関する基礎知識と現状把握	(1.5)
薬物依存の形成機序（精神依存・身体依存）	(1.5)
覚せい剤精神疾患の生物学的機序	(1.5)
覚せい剤依存・精神病の臨床	(1.5)
ベンゾジアゼピン系薬物の基礎と臨床	(1.5)
大麻の薬理作用及び行動毒性	(1.5)
女性薬物依存症者の臨床的特徴	(1.5)
青少年における薬物乱用の特徴と乱用防止のあり方	(1.5)
医療施設における薬物依存の治療	(3.0)
精神保健福祉センターにおける取り組み	(1.5)
全国の民間リハビリ施設の現状と課題	(1.5)
回復者による自助グループ活動	(1.5)
薬物依存者家族の支援について	(1.5)

合計 21時間

6. 定員

医師20名、看護師等30名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間

WEB 令和2年6月26日（金）～7月17日（金）

8. 受講料

24,000円

9. 会場

国立精神・神経医療研究センター 研究所3号館セミナールーム

第 58 回 精神保健指導課程研修

精神疾患に関する医療計画・障害福祉計画・介護保険事業計画の
実効性を持ったモニタリングと今後の包括的な策定のために

1. 目 的

来年度にひかえた第6期障害福祉計画に向けて実効性を持ったモニタリングをするための知識と技術を習得する。

精神障害にも対応した地域包括ケア構築推進事業の支援という位置づけでの研修になります。

2. 対 象 者

- ・都道府県で精神疾患の医療計画・障害福祉計画・介護保険事業計画を企画立案する担当部署職員
- ・政令市、中核市、精神保健福祉センター、保健所等で、同様の職務を行う職員

3. 研修期間

令和2年9月11日（金）

4. 研修主題

精神保健福祉資料、ReMHRAD の見方と使い方を中心に、地域における課題と施策の立て方を習得する。

地域における課題と施策のモニタリングについて、必要なことについて習得する

★受講決定者は事前課題の提出をお願いします（受講決定時に詳細をお伝えします）。

研修主題に関する Q&A の時間も設けます

5. 課程内容

	(時間)
精神保健福祉資料、ReMHRAD の見方と使い方	(3.0)
データを使った地域における課題を見出す	(2.0)
データを使った地域における施策をつくる	(2.0)
合計	7時間

6. 定 員

35 名（応募者多数の場合は選考）

*精神障害にも対応した地域包括ケア構築推進事業に参加されている自治体の方を優先します。

7. 申込方法・期間

WEB 令和2年7月2日（木）～ 7月22日（水）

8. 受 講 料

無 料

9. 会 場

国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第 18 回 摂食障害治療研修

1. 目 的

摂食障害に関する専門的な知識及び技術の修得を目的とする。このことにより摂食障害の治療者・医療スタッフの養成を目指す。

2. 対 象 者

病院、保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、摂食障害に関心を有する医療従事者
・精神科、心療内科、一般内科、小児科で臨床に従事している医師
・臨床心理業務等に従事する者

3. 研修期間

令和 2 年 9 月 15 日（火）から令和 2 年 9 月 18 日（金）まで

4. 研修主題

摂食障害の病態と治療に関する最新の知見

5. 課程内容

	(時間)
摂食障害の疫学・病態・治療概論	(1.5)
心理教育	(1.5)
セルフヘルプ	(1.5)
家族への対応	(1.5)
認知行動療法	(3.0)
身体合併症・身体的管理	(3.0)
精神障害・パーソナリティ障害を合併する摂食障害	(1.5)
アルコール依存と摂食障害	(1.5)
小児の摂食障害	(1.5)
入院治療	(1.5)
慢性期・回復期・支援	(3.0)
症例検討	(1.5)
総合討論	(1.5)

合計 24 時間

6. 定 員 60 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）
令和 2 年 7 月 10 日（金）～7 月 30 日（木）

8. 受 講 料 24,000 円

9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 研究所 3 号館セミナールーム

第 16 回 摂食障害看護研修

1. 目 的

摂食障害に関する専門的な知識及び技術を習得することにより、摂食障害のチーム医療、医療連携、患者・家族の支援に貢献できる看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等を養成する。

2. 対 象 者

精神科、心療内科、小児科、精神保健福祉センター等に勤務する看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等

3. 研修期間

令和 2 年 11 月 11 日（水）から令和 2 年 11 月 13 日（金）まで

4. 研修主題

摂食障害の病態と治療に関する最新の知見

5. 課程内容

	(時間)
摂食障害の疫学・病態・治療概論	(1.5)
コミュニケーションのスキル	(1.5)
摂食障害治療の基本	(1.5)
摂食障害の身体的合併症の管理	(1.5)
摂食障害、パーソナリティ障害を合併する摂食障害	(1.5)
精神科病棟における看護	(1.5)
心療内科・内科病棟における看護	(1.0)
小児の摂食障害と小児科病棟における看護	(2.0)
慢性期・回復期・支援	(2.0)
栄養リハビリテーション	(2.0)
ソーシャルワーカーの役割	(1.0)
総括討論	(1.0)
合計	18 時間

6. 定 員 60 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）令和 2 年 9 月 3 日（木）～9 月 23 日（水）

8. 受講料 18,000 円

9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 研究所 3 号館セミナールーム

第12回 認知行動療法の手法を活用した 薬物依存症に対する集団療法研修

本研修は平成28年度より新設された「依存症集団療法」の施設基準に定められている研修会です。なお、診療などのやむを得ない理由で最終日ご受講できない場合でも、「依存症に対する集団療法に係る研修」の要件を満たすため修了証書を発行します。最終日ご受講できない場合は、WEB申し込みの際に「特別連絡欄」にて予めその旨お知らせください。

1. 目的

薬物依存症者に対する積極的な援助ができるようになるとともに、Matrix Modelを参考にした包括的外来薬物依存症治療プログラムを実施するための基礎を身につけるとともに、薬物再乱用防止プログラムを実施できる援助者を増やし、国内各地にプログラムを普及させることが目的である。なお、本研修は、診療報酬における「依存症集団療法」算定における施設基準資格者養成研修でもある。

2. 対象者

医療機関、行政機関、司法機関、民間回復施設等で薬物依存症者の援助に従事している者。

3. 研修期間

令和2年11月16日（月）から令和2年11月18日（水）まで

4. 研修課題

薬物依存症者の臨床的特徴と治療に関するエビデンスを理解し、直面化を避けた動機付け面接の重要性を理解し、薬物依存症に対する集団認知行動療法のファシリテーションの実際を学ぶとともに、家族支援への理解を深める。なお、当研修と当センター精神保健研究所薬物依存研究部主催による「薬物依存臨床医師・看護等研修」の両方を終了した者に対しては、薬物依存研究部より「薬物依存専門課程修了認定書」を授与する。

5. 課程内容

	(時間)
薬物乱用の実態と乱用・依存・中毒概念の理解	(1.0)
薬物依存症患者への対応の基礎	(1.0)
SMARPPの理念と意義	(1.5)
SMARPPの実際	(1.5)
薬物依存症からの回復のための社会資源	(1.0)
薬物依存臨床における司法的問題	(1.0)
ビデオ学習・デモセッション	(3.0)
再乱用防止プログラムのグループワーク	(3.0)
薬物依存症と性的マイノリティおよびHIV感染	(1.0)
動機付け面接の基礎	(2.0)
依存者家族の支援プログラムCRAFTの基礎	(1.5)
総合討議	(1.0)

合計 18.5時間

6. 定員 100名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 令和2年9月7日（月）～9月28日（月）

8. 受講料 18,000円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第6回 災害時 PFA と心理対応研修

1. 目的

本研修は、自然災害等の災害時に必要とされる心のケア（社会心理対応）についての基本的な知識を習得し、あわせてWHO等の国際機関が開発した「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に基づいた被災者対応のスキルを実地に応用できる人材を育成するために実施されます。

第一日目にはPFAの実技研修を行います。20-30名程度（予定）のグループに分かれ、ロールプレイ、コミュニケーションスキル訓練、シナリオに基づいた討論などを織り交ぜて、実際の対応能力の向上を目的とします。また、第二日目には、トラウマと悲嘆を含む心のケアの概論、子どもの反応についての講義を行うとともに、軽度の精神症状が残った人々の心理的回復を促すためのリカバリースキルについても研修を行います。

PFAは災害だけではなく、犯罪被害、事故などのトラウマ被害者に対しても実施できる、汎用性の高いスキルです。この機会を積極的に活用され、災害に備えるとともに日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対象者

自然災害、甚大事故、犯罪、テロ等のトラウマ的出来事に際して、実際に被災者、被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある、精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術者、行政職員、教育関係者等。

3. 研修期間

令和2年12月15日（火）から令和2年12月16日（水）まで

※第5回災害時PFAと心理対応研修は、令和2年9月8日（火）～9月9日（水）です。

研修内容はいずれも同一です。

4. 研修主題

「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に関する基本技能を習得する。また悲嘆、子どもの反応について理解し、不安軽減のためのスキルを習得する。

5. 課程内容	(時間)
PFAの定義と枠組み	(2.0)
PFAの活動原則	(1.5)
PFAロールプレイ	(1.5)
セルフケアとチームのケア	(1.0)
災害と心のケア概論	(1.0)
子どもの反応	(1.5)
心理回復スキル	(2.5)
総合討論	(1.0)
合計	12時間

6. 定員 50名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）令和2年10月6日（火）～10月26日（月）

8. 受講料 12,000円

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール